

第1回宇治市文化芸術推進委員会議事録

日時 令和4年8月17日(水) 午前10時30分～正午

場所 宇治市役所8階 大会議室

出席者

宇治市文化芸術推進委員会

委員長 滋野 浩毅

委員 小宮山 恭子

〃 柴田 宗啓

〃 中谷 雅夫

〃 左 美幸

〃 福井 ひろ子

〃 矢野 友次郎

〃 山本 淳子

〃 吉水 利明

オブザーバー 高橋 和男

事務局

市長 松村 淳子

産業観光部副部長 前田 聖子

産業観光部 文化スポーツ課長 久泉 昭人

〃 文化スポーツ課 副課長兼文化係長 木内 小季

〃 〃 文化係 主任 桑原 大

他1名

資料

・次第

・第1回宇治市文化芸術推進委員会資料

会議内容

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長挨拶

4. 委員、事務局職員紹介

5. 議事等

(1) 委員会の趣旨について

事務局より「委員会の趣旨について」（委員会資料 資料2）の説明。

(2) 委員長選出、委員長職務代理指名

委員長挨拶

本推進委員会は宇治市の文化政策において中枢的な役割を担っていくのではないかと考えている。若輩者の私が委員長を担当させていただくことは甚だ僭越ではあるが、宇治の様々な文化芸術活動に携わられている委員の皆様の専門的な知見等のお力をお借りして宇治市の文化芸術を盛り上げていきたいと考えている。

(3) 委員会の会議の公開について

委員会の会議は公開と決定。

(4) 宇治市文化芸術振興基本計画等について

事務局より「宇治市文化芸術振興基本計画等について」（委員会資料6 ページ～14 ページ）の説明。

(委員長)

宇治市文化芸術振興基本計画等について、意見・質問はあるか。

(委員)

特になし。

(5) 源氏ろまんについて

事務局より「源氏ろまんについて」（委員会資料15 ページ～17 ページ）について説明。

(委員長)

源氏ろまんについて、意見・質問はあるか。

(委員)

特になし。

○事務局補足説明（各事業の概要について）

事務局より「各事業の概要について」（委員会資料10ページ～14ページ）について補足説明。

（委員）

紫式部文学賞は女性作家に限定した賞であるが、昨今の時代の流れの中、女性に限定するのはどうかと思う。私は紫式部の代弁者というわけではないが、女性に限定することは紫式部の意図と異なるのではないかと思う。対象の性を限定しないということアイデアとしてご提案したいと思う。

例えば、賞を受賞した作家に短いものでもよいので宇治市にかかわる新作をつくっていただくことは出来ないか。そういうものが集まれば、市の財産として残るのではないか。また、作家側にも新しい境地が生まれるかもしれない。

この2点を提案する。

（委員長）

昨今のジェンダーについての考え方の中、現代にあった文学賞の在り方については検討の余地があると思う。

また、折角の宇治の文学賞であるので、受賞者には何か宇治にかかわる作品をつくっていただいたり、場合によっては一定期間宇治に住んでいただいても良いのかとも思う。例として金沢市の泉鏡花文学賞は戯曲をつくっていただいているものもある。受賞だけでない文学賞の形もあるのではないか。

（委員）

国が施策したふるさと創生事業から始まり、市民に還元する考えのもと紫式部文学賞、市民文化賞が出来たはずである。

私も過去に市民文化賞を受賞させていただいたが、始まりから30年以上の時を経て、だんだん市民のものでなくなっている印象が強い。私が受賞させていただいた際の副賞は30万円であったが、今年度から1割の3万円に下がっている。紫式部文学賞の副賞も200万円から100万円に減っているものの、私は過去の受賞者としても解せない部分がある。宇治市の看板である文学賞とするのであれば、市民文化賞自体も違う様に考えるべきではないかと思う。私が過去に受賞した際の取材でどの様に若い方々の応募を増やしていくかということについてお話させていただいたことがあったが、10年経って形となり今回からユース賞を設けられた。それはすごい事だとは思いますが、まだまだ市民から離れていっていると思う。

また、宇治公民館がなくなり市民の活動が出来る場所がどんどんなくなってきている。私が市民と議会のつどいに参加した際には、宇治市は市民が活動することを良く思っていないのかというような意見も出ていた。

折角、この委員会が出来たので、市民に盛り上がっていただけるようなことを私は考えていきたいと思う。

応募しようとするモチベーションが30万円と3万円では違ってくる。私も10数年、市民文化賞をいただく為に書き続けたが、3万円なら書かなかったと思う。今年の副賞3万円を見て応募をやめた人も多くいると思う。市民の文化という考えを持って欲しい。市民不在の文化芸術とにならないように考えていきたいと思う。

(委員長)

各委員のお話や事務局の説明を聞く中で、宇治市は元々、市民文化活動の厚みがあったのではないと思う。予算や色々な要因があるのかもしれないが、かつてのような元気がない。

また、担い手としての若い人々がなかなか出てこないことや、かつては公民館活動でお互いの学び合いの中から市民文化賞の作品が出てきて、それが受賞に繋がったということが沢山あったと聞いているが、現在はなくなった公民館がある中で、これからの市民の文化活動をどうするかということが大きな論点になってくると思う。

若い人の話を聞くと、文化に関心がないわけではなく、どこでやるのか、どの様にアプローチすればいいのか分からないという意見がある。行政が想定している文化とは違う様な活動もある、例えばデジタルアートなど、かなり文化の範囲が広がっていることを踏まえて、委員会の中で話をしていくのが良いと思う。

(委員)

計画策定時に具体的な数値目標の議論があまりなかったと思う。

数値目標が置かれているものについては、どの様に達成していくのかも課題であると思う。

市民の文化活動について集約や一元管理が出来ていないと思う。また、各団体がどの様な課題を抱えているのか。

市民文化賞は、文学ジャンルだけの賞となっている。私は10数年前から言っているが、文化に関するジャンルを広く入れていいと思う。文化は食や音楽、絵画、写真など多くのものがある。しかし、色々なジャンルは誰が評価するのかという課題はあると思う。

また、3月1日の市政記念日では、スポーツは体育振興会の役員を10年間行うと表彰していただけるが、文化はなかなか表彰者が出ない。例えば、宇治市民絵画展は今年50年目となる。やはり文化活動について全体的に把握が出来ていないと思うので、掘り下げていく必要があると思う。

(委員長)

活動団体の課題をどの様に把握していくのか。これまで行ってきた様々な文化事業を掘り下げて、これからの宇治の文化事業がどの様なものを目指していくのか議論出来ればと思う。

(委員)

令和4年3月をもって紫式部イベント実行委員会が解散した。委員の方々の今後の関わり合いはどうなるのか。また、例年であれば8月に総会を行っていたが、この辺はどの様に整理されているのか。

(事務局)

当初の紫式部イベント実行委員会はイベントを開催する為、警察や駅や土木など幅広い関係者の方々に携わっていただいていたという経過があった。時代の流れの中で、イベントを縮小したこともあり、この度、紫式部イベント実行委員会は発展的に改編を行い、文化芸術振興基本計画策定に関わっていただいた委員の皆様、紫式部イベント実行委員会の中でも特に関わりの深い委員の皆様にお集まりいただき、宇治市文化芸術推進委員会により文化事業の推進を行っていかうと考えている。

各種事業ごとに色々な団体と関わり、また、ご協力をお願いする場合もある。

(委員)

引き続き、協力を求める団体には声をかけられるということを理解した。

(委員)

宇治には宇治田楽まつりや宇治茶まつり、鶺鴒い、茶摘み、平等院の雪景色、天ヶ瀬ダム放水などの素晴らしい景色がある。近江八景が有名だが、宇治市も宇治芸術八景をつくり、雑誌等のメディアと通じて発信することで、幅広い方々に宇治の良さを知っていただくことが出来ないかと思う。

(委員長)

委員の皆様のご意見、ご議論などを伺っていても、文化は多岐に渡り幅広いと思う。また、文化は大きく2つに分けられるのではないかと思う。

1つは、文学やお茶や沢山の文化財など、周りから見える都市のブランドとしての意味合い。

もう1つは、市民文化であると思う。それは、宇治で古くから行われている市民の様々な活動である。

この2つはきっちり分かれるものではないが、その両面を見て、どの様に宇治の文化推進に寄与していくかについてこれから議論を進めていきたいと思う。

以上で本日の議事は終了となるが、円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございます。

6. その他

(1) 次回委員会日程について

事務局から次回委員会の予定について連絡。

7. 閉会